

表彰対象者	所属	広報広聴課
	職名	主任
	氏名	泉 昂佑

推薦者	所属	経営企画部広報広聴課
	職名	課長
	氏名	古田 領哉

標題	穴水町の被災状況を伝える広報と写真展の開催
----	-----------------------

該当事業種別	<input type="checkbox"/> 発信・表彰	<input type="checkbox"/> 市民協創	<input type="checkbox"/> チャレンジ	<input checked="" type="checkbox"/> 災害支援・善行	<input type="checkbox"/> 地域貢献	<input type="checkbox"/> その他 ( )
--------	--------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	---	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	・令和6年1月1日に発生した、能登半島地震。避難所運営支援として、奈良県がカウンターパート支援を行う石川県穴水町への派遣に、率先して申し出た。現地の状況を見たり、現地の職員・人と話したりする中で、現状をより多くの人を知り、備えることの必要性を感じ、現地での業務の合間に、広報紙4月号用の写真撮影をした。掲載できなかった写真も含め5月1日～7日に生駒駅前図書室で写真展を開催した他、市ホームページ上にも掲載した。
取組効果	・市民等の防災意識の向上や長期的な支援意識の醸成に繋がった。また、同町広報担当職員と密に連携し、関係を構築した。 ・同取組を見た方から、自分たちのギャラリー(大阪市西区)での展示や、市内・外の小・中学校からも開催してほしいとの要請があり実施するなど、被災地支援の輪が広がった。 ・報道各社の取材を多数受け、情報発信につながった。
創意・工夫した点	・本来の避難所支援業務を十分に果たしたうえで、業務の休憩時間等に撮影・取材を行った。また、広報紙面で特集として取り上げ、写真展や市ホームページとの連動企画としたことで相乗効果をもたらした。 ・実施にあたっては、本人以外の派遣職員からもメッセージや写真を提供してもらい、一人では伝えきれない情報も届けるように心がけた。
推薦理由	・物的・人的支援だけではない、広報広聴課職員だからこそできる支援をしたいとの思いから、広報紙の特集で現地の状況を伝え、防災への備えの大切さを広く訴えたこと。また、紙面で使いきれなかった写真や同町の様子を伝える現地の広報紙等を手に取って見て頂きたいとの思いから、写真展の開催も企画し、それがさらに小中学校や他の地域での展示に繋がったことが特に功労があったと認められるため。
その他参考事項	

**取組を表す図や表、写真、成果物など**



▲広報いこまち4月号特集



▲写真展ポスター





写真展の様子

表彰対象 団体名	経営企画部 広報広聴課 広報広聴係
-------------	-------------------

推薦者	所属	経営企画部 広報広聴課
	職名	課長
	氏名	古田 領哉

標題	ふるさとCM大賞NARA2024 準グランプリ受賞！
----	----------------------------

評価事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 発信・表彰 <input type="checkbox"/> 市民協創 <input type="checkbox"/> チャレンジ <input type="checkbox"/> 災害支援・善行 <input type="checkbox"/> 地域貢献 <input type="checkbox"/> その他 ( )
--------	--

項目	内容
取組概要	ふるさとCM大賞NARA2024は、ふるさとCM大賞NARA実行委員会(奈良テレビ放送㈱等)主催による、県内の市町村が「ふるさとの良さ」をPRする、手作りの30秒CMを制作するコンテストで、令和3年度に始まり、令和5年度が3回目。今回出品した作品「もったいない」は、県内自治体25作品のエントリーの中から、最高賞に次ぐ準グランプリを受賞。生駒市の魅力をPRするとともに、多文化共生もテーマ選定の理由の一つ。
取組効果	副賞として、奈良テレビで令和6年度に年間100回当該CMが放送されている。(参加賞の場合は、年間10回の放送)
創意・工夫した点	生駒は通過点としてイメージされることが多く「通過するだけじゃもったいない」という気づきからストーリーを発想。奈良観光に来たが思いがけず生駒駅に降りた外国人の目線で、市内各所を紹介している。動画から写真に切り替わることで一緒に旅行をしているようなワクワク感が味わえるように工夫した。本市在住の外国人や観光ボランティアガイドの方、企業に協力していただくことで、よりリアリティのある動画になった。
推薦理由	審査の講評において、アイデアや映像の構成など、企画・構成・制作力が評価された。また、制作レベルの高さも「さすが生駒市」と褒めて頂いた。広報紙や市ホームページ、SNS等業務が多岐に渡り多忙な中で、係員一丸となって自前で企画・撮影・編集を行い優秀な賞を受賞されたため。また、受賞により生駒市の魅力を県内に広く伝えることができたため。
その他参考事項	

取組を表す図や表、写真、成果物など



スクリーンショット



▲撮影の様子



▲観光ボランティアガイドの方とも協働  
CM動画はこちら



表彰対象 団体名	経営企画部 広報広聴課 プロモーション係
-------------	----------------------

推薦者	所属	経営企画部 広報広聴課
	職名	課長
	氏名	古田 領哉

標題	全国広報コンクール(広報企画部門)で入選
----	----------------------

評価事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 発信・表彰 <input type="checkbox"/> 市民協創 <input type="checkbox"/> チャレンジ <input type="checkbox"/> 災害支援・善行 <input type="checkbox"/> 地域貢献 <input type="checkbox"/> その他 ( )
--------	--

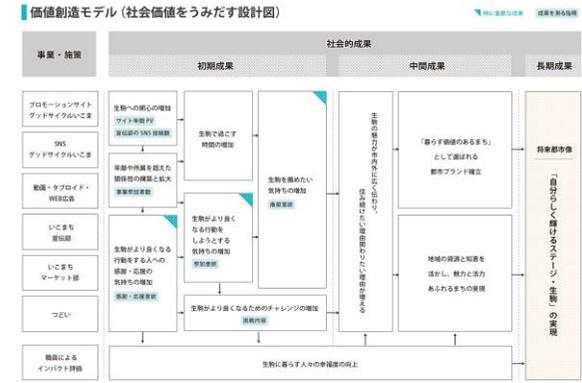
項目	内容
取組概要	・令和6年全国広報コンクール(主催:公益社団法人日本広報協会)の広報企画部門で、生駒市のこれまでのシティプロモーションをまとめた企画が特選に次ぐ賞である入選となった。
取組効果	・シティプロモーション施策の価値創造モデルを作成し、施策の効果測定や分析を実施した。 ・市民PRチーム「いこまち宣伝部」やグッドサイクルいこまなど、シティプロモーション事業に関わった方は、生駒を薦めたい意欲や地域に参画する意欲が参加後に大きく向上している。また、参加後も、継続して各課の事業や地域活動に参加しており、意欲の向上にとどまらず、実際の行動につながっている。
創意・工夫した点	シティプロモーション施策の価値創造モデルづくりと、施策が生んだ社会的価値の測定にあたり、以下の点を工夫した。 ・100名以上の事業参加者にアンケートやワークショップなどの協力を呼びかけ、定量・定性データを活用した。 ・協創対話窓口や総務省の制度を活用し、予算をかけずに行った。
推薦理由	本市シティプロモーションの核となる「いこまち宣伝部」は10年目を迎え、職員はもとより市民にもかなり浸透してきている。部員の皆さんは、まちの魅力を発信するとともに、活動を機にさまざまな場面でまちづくりに参画していただいている。こうした取組をはじめとした本市のシティプロモーションの現状や課題、効果をしっかりと分析したこと、また受賞により生駒市の魅力を県内外に広く伝えた功績は大きい。
その他参考事項	

**取組を表す図や表、写真、成果物など**



◀いこまち宣伝部の皆さん

■ 価値創造モデル (社会価値をうみだす設計図)



価値創造モデル▶

2023年12月27日 現在

表彰対象 団体名	地域活力創生部 商工観光課 観光振興室
-------------	---------------------

推薦者	所属	地域活力創生部 商工観光課
	職名	課長
	氏名	岸本 大介

標題	「ま～ぜま～ぜふえす」で日本記録樹立！【茶釜で同時にお茶を点てる日本最多人数(215人)】
----	---

評価事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 発信・表彰 <input checked="" type="checkbox"/> 市民協創 <input checked="" type="checkbox"/> チャレンジ <input type="checkbox"/> 災害支援・善行 <input checked="" type="checkbox"/> 地域貢献 <input type="checkbox"/> その他 ( )
--------	---

項目	内容
取組概要	高山茶釜や編み針など、竹製品の伝統産業を受け継ぐまちである高山町を盛り上げたいという想いから、高山竹林園で開催した地域振興イベント「ま～ぜま～ぜふえす」。同イベントで高山町産の茶釜を使って「茶釜で同時にお茶を点てる日本最多人数」の日本記録への挑戦を行い、見事に日本記録を樹立した。
取組効果	高山地域の住民・事業者、高山地域外の住民・事業者が協力し、高山地域の資源を活用した催事を行うことで、高山地域の魅力向上に寄与することができた。また、日本記録挑戦によって、取り組みの成果がメディアなどで報道されることや、若い世代にも伝統技術や文化に興味を持ってもらうきっかけとなり、催事を協力して行った者同士が翌年度以降も継続的に催事を開催できるために自走する土台作りができた。
創意・工夫した点	高山地域の居住者と市内外の居住者が対話による相互理解を進め、アイデアを出し合い、互いの強みを掛け合わせることで、アート・フード・アクティビティのコンテンツを新たな価値によって実現させた。日本記録挑戦に使用した抹茶碗は「もったいない食器市」で市民から提供されたリユース品。生駒市らしいSDGsの取り組みが複合されたイベントになった。SNS等のメディアを通じて、これらの取り組みは多くの人々に伝えられ、反響を呼んだ。
推薦理由	高山地域の振興のための新たな取り組みを企画・実行し、その認知拡大のための効果的なメディア活用や、企業や市民とのコミュニケーションを活性化させた実績は珠玉のものであり、多様な主体との協創によって市民のニーズに応えたこれらの具体的な取り組みは、生駒市役所が担う役割をよく理解したもので、表彰に値する。
その他参考事項	用語説明:もったいない食器市 家庭で使用しなくなった不要食器を、北コミュニティセンターと南コミュニティセンターで回収し、検品後の美品を必要な方に無料で配布している、生駒市独自のリユース推進の取り組み。

**取組を表す図や表、写真、成果物など**

「茶釜で同時にお茶を点てる日本最多人数」の日本記録樹立

表彰対象 団体名	デジタルイノベーション推進課
-------------	----------------

推薦者	所属	デジタルイノベーション推進課
	職名	課長
	氏名	森 康通

標題	地域ポイントの導入
----	-----------

評価事業種別	<input type="checkbox"/> 発信・表彰	<input type="checkbox"/> 市民協創	<input checked="" type="checkbox"/> チャレンジ	<input type="checkbox"/> 災害支援・善行	<input type="checkbox"/> 地域貢献	<input type="checkbox"/> その他 ( )
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	市民力の更なる強化や市民との協創によるまちづくりの実現手段として、本市では前例のない「地域ポイント」の導入による実証事業を10月より開始した。まずは生駒駅周辺地域を中心に小規模展開した後、段階的に対象地域や利用者を拡大してゆく予定である。この事業を通じ、市民が地域活動に参加するきっかけを提供するなど地域の活性化を促進することで、まちづくりに主体的に関わる人々の増加を目指す。
取組効果	10月初旬に、地域の事業者・団体向けの提案活動を開始。12月25日現在、利用者数は860名（他地域の方を含む）に達し、ポイントのやり取りが可能な事業者や団体は25カ所に拡大した。並行して市役所内各課との協業に向けた相談を推進、イベントでの活用やポイントを介した地域交流の創出も始まっている。
創意・工夫した点	事業の継続性を鑑み、市からの補填等をせず、あくまでも店舗等の創意工夫で参画していただく仕組みとしたため、特に店舗等の事業者や地域団体に当事業の意図を伝え参画に向けたご提案をする際には、一軒一軒訪問し、事業の趣旨や想いを丁寧に伝えていった。何度も足を運び、顔の見える関係づくりを心がけることで、共感・賛同の輪を少しずつ広げていった。
推薦理由	本事業は、事業者・団体、住民、各担当課など、多岐にわたる関係者との幅広い連携を基盤とする新たな取組みであり、その実現には各主体との信頼関係の構築に向けた地道な努力が不可欠である。担当者は積極的に地域に足を運ぶことで、多くの主体との対話を重ね、協力関係を築くことが出来ている。また、本事業を通じて地域交流の創出や庁内各事業での活用が検討されており、庁内外に良い影響を及ぼし始めている。
その他参考事項	地域ポイント事業HP： <a href="https://www.city.ikoma.lg.jp/0000036456.html">https://www.city.ikoma.lg.jp/0000036456.html</a> まちのコイン事業者HP： <a href="https://coin.machino.co/regions/ikoma">https://coin.machino.co/regions/ikoma</a>

**取組を表す図や表、写真、成果物など**

まちのコイン「くるり」をスタートします

【更新日：2024年11月29日】

生駒のコインは「くるり」です。



**まちのコインとは**

「まちのコイン」は、スマートフォン・タブレット端末で利用できるアプリです。誰かのちょっとしたお手伝いごとや環境に良いことなど、地域活動に参加するコインが獲得でき、その獲得したコインを使って、「スポット」と呼ばれるお店・企業・団体等で、特別な体験やサービスを受けることができます。

「まちのコイン」の詳細はこちら（別ウインドウで開く）。

（注意）アプリ内で使用するコインには、法定通貨（日本円等）への換金性はありません。

**生駒のコインは「くるり」です**

生駒市以外にも、全国27カ所で「まちのコイン」を導入している地域があり、それぞれコインの名称が異なります。生駒市は、「めぐるご縁の輪 広がるまちのいろどり」をテーマに、コインの名称を「くるり」と名付けました。「くるり」を覚えて使って、ゲームのように楽しみながら関わりやつながりを広げていきましょう。

生駒市内のスポットはこちら（別ウインドウで開く）。



▲生駒のスタンプモチーフ「くるり」

表彰対象 団体名	総務部 防災安全課 生活安全係
-------------	-----------------

推薦者	所属	総務部
	職名	参事
	氏名	杉浦弘和

標題	市営自転車駐車場の機械化・DX化
----	------------------

評価事業種別	<input type="checkbox"/> 発信・表彰	<input type="checkbox"/> 市民協創	<input checked="" type="checkbox"/> チャレンジ	<input type="checkbox"/> 災害支援・善行	<input type="checkbox"/> 地域貢献	<input type="checkbox"/> その他 ( )
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	生駒駅周辺の自転車駐車場は、通勤・通学の利用者が低価格で利用できる利便性の高い施設である一方、営業時間の延長や恒常的な満車状態の改善を望む意見などが利用者から寄せられていた。これらの課題を解決するため、駐輪機器や精算機を設置し、無人管理による24時間営業に順次移行するものであり、今回、谷田第3自転車駐車場を先行オープンした。(2024年1月7日オープン)
取組効果	今年度オープンした谷田第3自転車駐車場は82台駐車可能な新設の施設であり、駅北側周辺の自転車駐車場の混雑緩和、違法駐輪に効果がある。
創意・工夫した点	駐輪機器や精算機については事業者の負担により設置するとともに、駐車料金の決済については現金、クレジット、QRコード決済に対応できるものとした。
推薦理由	定期契約のオンライン化やAIによるデータ解析など、DX化を進めることで経費削減を図るとともに、利用者にとってこれまで以上に使いやすい駐輪場を目指した画期的な取り組みであるため。
その他参考事項	先行オープンした谷田第3自転車駐車場以外の6施設については、令和7年4月以降、順次、駐輪機器の導入、利用料金のQRコード決済等をすすめ、令和7年度末に完了を予定している。

取組を表す図や表、写真、成果物など





表彰対象者	所属	消防本部 消防署 救助第1係
	職名	消防士長
	氏名	橋富 帝人

推薦者	所属	消防本部 消防署
	職名	消防司令・署補佐(第1中隊)
	氏名	堂前睦巳・北野雅之

標題	「消防フェスタIKOMA2024」～生駒愛デンティティー～開催に伴うSNSを利用した告知について
----	--

該当事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 発信・表彰 <input type="checkbox"/> 市民協創 <input type="checkbox"/> チャレンジ <input type="checkbox"/> 災害支援・善行 <input type="checkbox"/> 地域貢献 <input type="checkbox"/> その他 ( )
--------	--

項目	内容
取組概要	昨年11月2日に開催した消防フェスタの事前告知をカウントダウン形式で25日間に渡り、計28回SNSに投稿した。市長をはじめ、協賛いただいた団体や会場を提供いただいた小学校など、様々な方々に出演いただくことにより、年齢性別等問わず幅広い方に見てもらえるような取り組みを検討した。
取組効果	当日は雨天のため規模を縮小しての開催となりましたが、悪天候にもかかわらず約350人もの方々にご来場いただきました。また、来場者の約3割がフェスタの開催をSNSで知ったというアンケート結果となりました。
創意・工夫した点	事務的な告知ではなく、投稿毎に様々な関係者に出演していただき、特に消防職員以外の方にも多く出演していただく事を考えていた。消防フェスタをたくさんの関係機関と共創することで、一体感のあるフェスタになった。内容に関しても対象年齢を絞らず、25日間の投稿期間の中で、全ての人が興味を持てる内容で『SNSという世界において、市民の方に立ち止まってもらえる』ことを意識した。
推薦理由	昨年7月に消防本部としてInstagramの公式アカウントの運用を開始し、手探り状態で情報発信やフォロワーの獲得について苦慮している中、カウントダウン告知の企画立案や撮影、編集等を一手に担い実施した。業務においても広報広聴委員として様々なアイデアを提案するなど能力を十分発揮されており、今後の更なる発展を期待して推薦するものです。
その他参考事項	フェスタのカウントダウン告知に興味を示していただいた読売新聞が、この取り組みについて記事にしたいと、後日取材に来られました。

**取組を表す図や表、写真、成果物など**

The grid displays 28 social media posts, each with a date and the text '消防フェスタ開催まで' (Fire Festa starts on this date). The dates are: 24日, 23日, 22日, 21日, 20日, 19日, 18日, 17日, 16日, 15日, 14日, 13日, 12日, 11日, 10日, 9日, 8日, 7日, 6日, 5日, 4日, 3日, 2日, 1日. Below the grid are additional photos and a newspaper clipping. The newspaper clipping is from Yomiuri Shimbun, dated 11/2, with the headline '消防フェスタ 雨天時のお知らせ' (Fire Festa: Notice for rainy weather).

表彰対象 団体名	おくやみサービス創設・運営に係る 中心メンバー／プロジェクトチーム／検討会議担当課／ コンシェルジュ
-------------	--

推薦者	所属	総務部市民課 / 財務部課税課
	職名	課長 / 課長
	氏名	萩本 和美 / 南口 嘉子

標題	おくやみサービスの創設 「市民に寄り添った窓口を・・・部局を越え、心を一つにして全員で目指した、窓口改革」
----	---

評価事業種別	<input type="checkbox"/> 発信・表彰 <input type="checkbox"/> 市民協創 <input checked="" type="checkbox"/> チャレンジ <input type="checkbox"/> 災害支援・善行 <input type="checkbox"/> 地域貢献 <input type="checkbox"/> その他 ( )
--------	--

項目	内容
----	----

取組概要	<b>【死亡に伴う各課の手続きをワンストップサービスに改革】</b> 「書かない・待たない・回さない(ワンストップ)窓口」を目指し、手続きの一括受付を行うおくやみコーナーを令和6年6月に設置し、「回さない」ワンストップ窓口を実現。事前に必要な手続き情報を整理することで、申請書を「書かない」、窓口で「待たない」に繋がった。
------	--

取組効果	<b>12課16係69手続きをワンストップサービス</b> で対応 主に手続きが必要な <b>11手続き</b> に係る時間は、 <b>50分短縮</b> 《おくやみサービスでの手続き件数》 行った手続き件数は、12月末時点で延べ3,490件 (おくやみサービス開始前のプレ期間含む)
------	--

創意・工夫 した点	<b>【生駒市方式を考案】</b> 死亡届に基づき、各課で事前にデータを整理、管理することにより ◇来庁予約時から、手続き等の案内をスムーズに行うことができる ◇事前に把握した内容で手続きを進めるため、正確で早い受付 ◇空きがあれば、予約なしでも手続き可能に。
--------------	--

推薦理由	おくやみサービス利用者アンケートに、続々とお礼の声が届けられており、市民サービスの向上に寄与したため。 <利用者アンケート結果> 「利用してよかった」「どちらかと言えば利用してよかった」⇒100%
------	--

その他 参考事項	◇業務や仕組み自体を変えることを目的とした業務改善(アナログ改善)を実施し、改善後の業務に合わせてシステムを構築 ◇死亡情報の管理システムは、市職員(情報システム管理室)が開発 ◇おくやみコーナー開設に要した費用は、消耗品費程度
-------------	--

取組を表す図や表、写真、成果物など
-------------------

窓口体験調査の様子



おくやみコーナーの様子



本取組にあたり、先進地視察や職員が手続きを体験する窓口体験調査を実施。加えて、「おくやみサービス検討会議」を開催するなど、何度も検討を重ね課題を解決していきました。

おくやみコンシェルジュが、ひとりひとり丁寧に手続きの説明を行います。

🗣️ おくやみサービス利用者の声 🗣️

👤 市民のためを思った非常に素晴らしいサービスだと思います。	👤 一か所の手続きで済むのはありがたいです。聞きたいこともその場で具体的に聞け、丁寧に対応いただきました。
👤 市役所の各部署に連絡を取っていただけて仲介役としてスムーズな対応でした。わからないことばかりでしたので非常に助かりました。	👤 説明が丁寧で、私にとって最善の方法を提案してくださいました。手続きもスピーディでした。
👤 電話問い合わせ時から、丁寧に、寄り添ってくださり本当に感謝しています。家族を亡くした者には多くの事務的負担が課せられます。その負担を軽減できる素晴らしいサービスだと思います。本当にありがとうございます。多くの市民の皆がおくやみサービスを利用できる体制作りの構築とサービス継続をお願い致します。	

表彰対象 団体名	▶地域包括ケア推進課 地域共生サミット推進室 ▶地域共生社会推進全国サミット専門部会【部局横断プロジェクトチーム】 (村田充弘、宮崎裕也、佃紀子、立田久美子、粉家立樹、井上惇奈、福山清美、上野貴之、秋永陽子、渋谷英生、浜田智哉、澤辺誠、井川啓一郎、和田真人、荒木宏明、高橋俊雄、原木奈緒美)
-------------	---

推薦者	所属	福祉部
	職名	次長/地域包括ケア推進課長
	氏名	田中健登/知浦太一

標題	地域共生社会推進全国サミットinいこまの開催 ～市民と一緒に「地域共生社会」を目指して～
----	--

評価事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 発信・表彰 <input checked="" type="checkbox"/> 市民協創 <input checked="" type="checkbox"/> チャレンジ <input type="checkbox"/> 災害支援・善行 <input type="checkbox"/> 地域貢献 <input type="checkbox"/> その他
--------	--

項目	内容
取組概要	○令和6年10月11日と12日に「地域共生社会推進全国サミットinいこま」を開催。 ○産官学民42団体の実行委員会と協働し、1年半に渡って企画・準備に取り組んだ。 ○サミットでは、「誰もが居場所と出番があるまちに」をテーマに、市内の活動を全国に発信するとともに、医療福祉・教育・地域づくり等様々な切り口で活躍する方々を全国から招き、地域共生社会が求められる社会背景と、地域活動の楽しさの両面を効果的に啓発。
取組効果	○参加者数：39都道府県から延べ1,800人以上 ○地域共生社会への理解促進、機運醸成と本市の知名度向上に貢献。 ○サミットを通じて多くの市民と協創関係を築くとともに、サミットに関わった市民同士のつながりも創出。その成果を孤独・孤立対策や「かさねるいこま」との連携など具体的な政策へとつなげて形にし、全国的に注目される好事例を生み出した。
創意・工夫した点	○市民を主役にすることを意識し、市民・事業者が自らの活動を紹介する視察コース(13箇所)や多彩なサイドイベントなど、生駒市らしい、市民力を発揮したプログラムを企画。 ○実行委員会では、先進地視察、有志の部会の立ち上げを通じてつながりを構築し、それを基にサミット後も続く体制(孤独・孤立対策連携プラットフォーム)へと展開した。
推薦理由	「一過性のイベントで終わらせず、サミットを契機に地域共生社会の基盤を作る」という難しいチャレンジに部局横断のチームで真正面から向き合い、市民と対話し続け、共に何ができるのかを考え続けた姿勢は、市の行政全般の模範となる。 サミット当日、多くの参加者が、充実したプログラムに満足し、職員に感謝や労いの声をかけている場面を何度も見て、大いに表彰に値するものと確信したことが推薦理由である。
その他参考事項	○参加者アンケートで、地域共生社会への理解が「深まった」「やや深まった」と回答した人の割合は98%。 ○内閣府孤独・孤立対策推進室主催の全国シンポジウムで本事業に関して発表。 ○厚生労働省「老人保健健康増進等事業」に採択。

取組を表す図や表、写真、成果物など





全国からの参加者：延べ**1,800人以上**  
 地域共生社会への理解が深まった人：**98%**  
 実行委員会参画団体数：**42団体**

市民力で多彩なプログラムを提供



講演等と併せて開催した企画(一部)

- ・お弁当・雑貨マルシェ
- ・バラチア
- ・作品展
- ・吹奏楽
- ・映画上映
- ・・・等

開催後も…

サミット実行委員会をベースに  
**孤独・孤立対策のプラットフォームの構築**  
 (サミットで生まれたつながりを具体的な形にして継続)

サミットは「終着点」ではなく「始まり」!



表彰対象 団体名	上下水道部(上水道部門)
-------------	--------------

推薦者	所属	上下水道部
	職名	部長
	氏名	岡村 祥宏

課題	応急給水設備整備事業・応急給水対策事業
----	---------------------

評価事業種別	<input type="checkbox"/> 発信・表彰	<input type="checkbox"/> 市民協創	<input type="checkbox"/> チャレンジ	<input type="checkbox"/> 災害支援・善行	<input type="checkbox"/> 地域貢献	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (災害対策の充実)
--------	--------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	---

項目	内容
取組概要	<p>災害時や断水時の飲料水確保のため、地域住民の協力「共助」を得て容易に給水活動ができるような取組を行っている。</p> <p>①狭戸配水場に緊急遮断弁及び応急給水設備を設置 応急給水設備は6箇所目</p> <p>②地域の防災訓練及びイベントに参加し、緊急耐震貯水槽等について説明</p> <p>③2.7tの給水車を用いた給水訓練</p> <p>日本水道協会関西地方支部合同防災訓練・水道事業での給水訓練</p>
取組効果	<p>訓練では、自身や家庭で取り組む「自助」や地域住民の協力「共助」、水道事業の対策「公助」について説明している。特に地域住民に協力「共助」してもらうことで、災害時や断水時に迅速・効率的に給水できる。</p>
創意・工夫した点	<p>①緊急遮断弁は水道管の破損時に配水池からの水道水流出による二次災害を防ぐ効果がある。</p> <p>②地域の防災訓練に参加し、災害時や断水時に迅速に対応するためには、「共助」が必要不可欠であることを啓発できた。</p> <p>③本市で一番容量のある給水車であり、他の自治体への応援給水の際には大量の水を一度に運搬できるため、有効かつ効果的である。</p>
推薦理由	<p>水道は市民生活を支える重要なライフラインであり、災害時や断水時に備えた取組を継続して行っているため。</p>
その他参考事項	<p>令和6年能登半島地震における応急給水・応急復旧活動に参加した際には、日頃からの訓練を通じて、実践に活かすことができた。</p> <p>応急給水活動 1/31～2/4</p> <p>応急復旧活動 2/18～26</p> <p>応急給水活動 3/19～23</p>

取組を表す図や表、写真、成果物など	
 <p>鹿ノ台校区防災訓練での講話(鹿ノ台中学校)</p>	 <p>新生駒台自主防災会の防災訓練(生駒台小学校)</p>
 <p>真弓配水場に設置された応急給水設備からの給水訓</p>	 <p>スポーツと文化のフェスティバルで耐震貯水槽からの給水について説明(生駒東小学校)</p>